

一 気持ちと言葉

一

初めてスウェーデンに旅行したときのことです。わたしは、ホテルのエレベーターに一人で乗っていました。途中で観光客らしい人が乗ってきました。その人は、またと中でおりましたが、そのとき、わたしの洋服にちよつとふれたような気がしました。

「ソーリイ（すみません）」

思いもよらない声が、わたしの耳元にひびいてきました。東京の満員電車で、いつもつき飛ばされるように乗りおりしているわたしは、この声を聞いてびっくりしました。わたしの方がとびらの近くにいて悪かったからです。

外国語の不得意なわたしは、いくつかの英語を思いうかべましたが、ついに口に出せないうちに、エレベーターのとびらはしまつてしまいました。

そうだ、「いいえ、こちらこそ。」とか、「どういたしまして。」とか、日本語で言えばよかった。言葉は通じなくても、気持ちは通じたでしょうに。

わたしは、残されたエレベーターの中で、「ソーリイ。」という、やわらかくて美しいひびきを思い出しながら、しきりに後かいしていました。

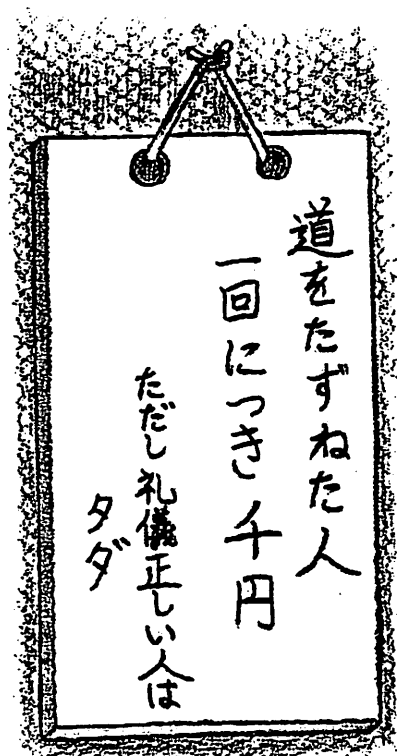


「こんなことがありましたよ。」
と、友だちが話してくれました。

ある駅で電車をおりて、駅前の花屋さんで道をたずねようとした。ところが店の前に『道をたずねた人、一回につき千円』と書いた札がぶら下がっています。せちがらいな、と思つてよく見ると、小さく『ただし、礼儀正しい人はタダ』と書いてあります。ともかく、中に入りました。

「ごめんください。道をおたずねしたいのですが。」
主人らしい年配の人は、とても親切に教えてくれました。

「ありがとうございます。」



助かりました。それで、お礼は。」

と、話しかけると、その主人は、こう言いました。

「いいえ、お礼はいりませんよ。札に書いたとおりです。」

実はこの主人、店がちょうど改札口の前なので、毎日十人以上の人に道を聞かれるそうです。もともと親切な人で、ていねいに教えてあげているそうですが、「ありがとう。」のお礼を言う人が、少ないのです。なかには、教えるのが当然だという顔で出て行ってしまふ人もいます。だんだんにはらが立ってきて、この札を出したというのです。

帰りに、また店の前を通つたので、

「先ほどはどうもありがとうございます。おかげで用がたせました。」
と声をかけると、主人がつぶやいたそうです。

「今日は、気持ちのよい日だ。わたしの方が礼を言いたいくらいだ。」

わたしの行きつけのレストランで、リゆうがくせい留学生らしい若い女の人が働いています。あるとき、かの女はわたしに日本語で話してくれました。

「あるお客さんを、いつ来るか、わたしは待っています。」
きつと、いつか来たすてきな男性を心待ちにしているのだろうと、勝手な想像ぞうをしてしまいました。そうではありません。ときどき来る女性客のことでした。

かの女は、いつも客のようすを見ていて、コップの水が空になったのに気づくと、すぐに新しい水を差してくれるのです。みんな、当然のことのようにだまって水を飲んでいきます。

ところが、その女性客は、必ず顔を見てにつきりほほえみながら、「どうもありがとうございます。」と、言ってくれるというのです。

「日本にきて、いちばん、うれしいことです。」

わたしは、その女性客は、客としてではなく、人間対人間として、心の通い合った友だちと話すような気持ちで声をかけているのだと思いました。かの女は、びん感にそれを感じ取っているのでしょうか。

わたしは、この二人のたった一言の会話のかわされる美しい情景じょうけいを、この目で見たいものだと思っています。



1 気持ちと言葉

2-1(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。(礼儀)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

あいさつや言葉遣いなどの礼儀作法は、社会生活を営む上で欠くことのできないものである。人の出会いは、あいさつで始まり、あいさつで終わると言われる。また、心の乱れは言葉や服装の乱れとなって表れるし、言葉がぞんざいなときは、心もずさんでいることが多い。また、自分の気付かないことで相手を不快にさせていることもある。

日常生活においては、あいさつ・服装・言葉遣いなどのすべての行為や言葉に、相手を尊重し、相手の立場になって考える温かい心遣いや、時と場に応じて相手の立場に立って接する態度が求められる。このように心のかよった礼儀作法の大切さを理解させ、習慣化が図れるようにすることが必要である。

〈子どもの実態について〉

高学年になると、その場その場によってどのような礼儀作法があるか、およそ理解しているが、慣習的なことや礼儀作法の形式等の形と相手を尊重する心とが一体となって礼儀となると

いうことにまで考えるにはいたっていない。

そこで、礼儀作法について、まず、お互いが心を通い合わせ、気持ちよく暮らしていく上で欠かせないものであるという見方・考え方と実践しようとする意欲を育てたい。そのためには、尊敬、感謝、信頼、友情等、相手を尊重する心とその心を場所や時、相手に即したあいさつ、言葉遣い、動作で表現しようとする心を重視したい。

〈資料について〉

この資料は、日常生活の中での、ごくありふれた事象に感情を動かされている大人のさりげない随想である。三つの話に共通した美しい心と言葉のつながりについて考えを深めさせ、黙っていてもかまわれないような状況であっても、たった一言声をかけるだけで、心が通じ合い、ほのぼのとした関係をつくることができることを理解させたい。

②ねらい

常に礼儀正しく、真心をもって人に接する態度を養う。

□板書

気持ちと言葉



○ いつも礼儀正しく、相手の立場になって考え、接する。
○ 時と場合に応じて相手に失礼のないような態度をとりか。

「ソーリー。」
・思いやりのある温かい感じ
・「どういたしまして。」
の一言が言えず後か
・日本語で言っても気持ちは通じたのに
・お礼を言われた
・すがすがしい感じ
・親切に道を教えてくれた
・お礼を言うのは当然だ
「どうもありがとう。」
・心のこもった態度
・水もおいしく感じる
「日本にきて、いちばん、うれしいこと」
・言葉は通じなくても心が通じたことがうれしい

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 自分たちが日常使っているあいさつの言葉を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 普段どのようなあいさつの言葉を使っていますか。そのときどんな気持ちで言っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・おはよう、こんにちは、おやすみなさい… ・決まっているから言っている。心がこもっていない。 <p>(2) 資料「気持ちと言葉」を読んで話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作者が、みなさんに語りかけています。三つの話それぞれにどんな場面で、どんな人たちが、どんな言葉で話し合っているかを思い浮かべながら聞きましょう。 ② 三つの話の中から、自分の好きな話を一つ選んでもう一度黙読しましょう。 ③ 同じ話を選んだ人でグループを作って話し合しましょう。 <p>※ 資料をもとにし、場面設定をして役割演技を行うと効果的である。</p> <p>(例) スウェーデンのホテルのエレベーターの中での出来事、わたしと外国人観光客との会話</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ソーリー。」と言われてどう思いましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「どういたしまして。」と日本語で言えばよかったです。そうすれば気持ちが通じたのに。 ○ もしみなさんが外国人観光客の立場ならどんな態度になるか、劇をしてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・なにも言わないで立ち去る。 ・おわびの言葉のない態度に腹を立てる。 ○ みなさんの態度と外国人観光客の態度を比べてどう感じましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の方が礼儀正しくて感じがよい。 ・みんなの態度はだらしなない感じで礼儀を知らない。 ④ 時と場にふさわしい礼儀についてまとめてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつがきちんとできると周囲の人も感じがよい。 ・自然に出てくるよう身につけることが大切。 ・場所などを考えて行動できるようにする。 <p>(3) 自分たちの生活について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで、どんな気持ちや態度で人に接していましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつも礼儀正しく、相手の立場になって考え、接することができた。 ・時と場に応じて相手に失礼のないような態度をとることができた。 <p>(4) 地域の人々の声(録音)を聞く。</p> <p>〔笑顔と気持ちのよいあいさつによって一日がさわやかに〕 〔なるというような話をしてもらい、録音しておく。〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中での自分の体験を想起し、価値にかかわる意識がもてるようにする。 ・ さり気ない随想なので話の内容については朗読と黙読で十分に理解できるものと思われる。 ・ 実生活では、気軽に礼を言ったり、おわびを言ったりする言葉が出ないことが多いが、その言葉の出たときの心地よさをそれぞれの話の主人公に共感しながら感じとれるようにする。 ・ 外国人観光客の言葉遣いや態度が、わたしをどんな気持ちにさせたか考え、自然に身についた礼儀作法が相手により感じを与えることに気付くようにする。 ・ 即興劇を見たり、演じたりする中で自分の日常の態度に気付くようにする。 ・ 人に対してよい感じを与え、時と場に応じた行動がとれることが大切であることに気付くようにする。 ・ 生活の中で、時と場に応じて、心のこもった礼儀作法ができていくかどうかを考えられるようにする。 ・ 実践への意欲がもてるようにする。(心のノート P36・37)